

令和5年度 第1回 大阪府立みどり清朋高等学校 学校運営協議会 記録

日時：令和5年6月22日

14：00～15：30

記録：湯浅

1 校長挨拶、運営協議会委員長選任

2 委員長挨拶

3 委員紹介

勝山 正樹 委員長（近畿大学）

木下 隆 委員（関西福祉科学大学）

山口 勝也 委員（池島学園校長）

高田 茂夫 委員（新池島町自治会）

仲津 幹子 委員（めだかこども園園長）

韓 雪原 委員（PTA会長）

4 学校運営協議会 実施要項 【教頭より】

5 令和4年度「学校評価」及び令和5年度「学校経営計画」 【校長より】

- ・めざす学校像として、「確かな学力」「コミュニケーション力」「課題解決力」「地域貢献力」の4つのチカラを引き出し、伸ばす学校を目標としている。
- ・昨年度に前校長時に承認いただいたものを継承している。

6 スクールポリシー案 【校長より】

- ・昨年度はスクールミッションを作成した。
- ・今年度はスクールポリシーを作成し、学校運営委員からの承認を得て、来年度HPにアップする予定である。

7 令和5年度重点目標および達成目標等について（3学年および4分掌長より）

・1年生

(1)社会で活躍できる人になる

- ・自己管理能力を身につける（遅刻ゼロ週間、スタサブ週間、動画配信など）。
- ・学校行事に積極的に参加し、自主的な行動（各行事でリーダーを経験する）。

(2)確かな学力

- ・授業規律の確立。
- ・家庭学習の定着（スタディサプリを活用）。

(3)個々の進路の方向性に沿った、確かな分離選択とコース選択

- ・文理、各コースの適切な選択（本人の希望、保護者の意向、本気度を重視）。
- ・進路目標の早期決定（選択肢を広げることができるよう、大学見学、分野別説明会等を開催）。

## ・2年生

### (1)ふさわしい生活習慣に根ざした、他人を認め助け合い高め合う集団づくり

- ・時間を守る、公共の場でのふさわしい振る舞い、授業規律、自分とは異なる個性の仲間を認める。
- ・リーダーシップを発揮できるように、様々な機会を通して、リーダーを育成している。

### (2)修学旅行を通じて、自然環境・文化・平和について学ぶ

- ・石垣島での修学旅行に向けて、総合的な探究の時間や夏季休業中の課題等で調べ学習を行い、発表の機会を設け、学びの共有を行う。

### (3)基礎学力のさらなる充実とともに、発展的学力の充実を目指し、進路の可能性を広げつつ、進路目標を定める。

- ・基礎学力の充実（スタディサプリ、動画配信、面談の実施など）。
- ・進路研究と進路目標の決定（オープンキャンパスや企業説明会への参加など、夏季休業中に調べ学習を行う）。
- ・確かな科目選択（各人の進路目標に基づき、適切な選択ができるように指導する）。

## ・3年生

### (1)他人を認め、助け合い高め合う集団づくり

- ・時間、授業規律を守る。

### (2)学校行事に積極的に参加し、学校生活を充実させながら進路実現に向けての発展的な学習に取り組む

- ・学校行事の充実（どの子もいきいきと行事に参加）。

### (3)個々の進路実現に向けて、高い志を持ち最後まで諦めずに努力する

- ・しっかりした進路目標を持たせる（夢を持つだけでなく、実現できるのか、何のために進学するのか）。

## ・教務企画部

### (1)早期連絡と提出期限の徹底と内容の正確さ

- ・早めの連絡でしっかり吟味と確認作業をする時間を設けることにより、正確な内容の提出を求める。

### (2)専門コース設置校としての内容の充実

- ・ガイダンスの充実と教員間の引継ぎを丁寧に行う。
- ・希望者の人数調整や講座編成、時間割編成をより良いものにする。
- ・観点別評価や新カリキュラムは手探り状態である。一周りしないと方向性はわからない。新カリキュラムに対応している内規に変更していく必要がある。

### (3)中学校への広報活動

- ・生徒が活躍する学校説明会を年2回開催する。
- ・東大阪市、八尾市および近隣中学校への訪問を年1回実施する。

## ・生徒指導部

### (1)遅刻指導の強化

- ・本年度より、本鈴1分前のメロディチャイムを廃止。自律を促す指導に変えた。

### (2)部活動の活性化

- ・加入率は55%（昨年度は62.2%）部活動体験を実施した。
- ・行事（体育祭）を支える「縁の下の力持ち」として、クラブ員が任務の遂行にあたる。

### (3)身だしなみ指導

- ・定期的な声掛けや集会において意識付けを行う。

## ・進路指導部

### (1)自学自習の習慣の確立

- ・環境面での支援（自習室の開放、講習を実施）
- ・学校教育自己診断における肯定率を上げる（昨年度43.6%）

### (2)自ら考え、進路決定するための指導・支援

- ・各学年が分野別説明会を年間2回予定している。
- ・公務員希望者対象に公務員セミナーを実施予定。
- ・進路閲覧室の整備、進路関係冊子の充実（赤本の充実）。
- ・模擬試験受験への積極的な働きかけを行う。
- ・「一人でがんばる」ではなく「みんなでがんばる」雰囲気づくりが大切である。
- ・少子化で大学には入りやすくなっている。大学の特色の差があまりつかなくなっている。

### (3)教員間での情報共有と保護者への情報提供

- ・保護者対象進路説明会の実施。
- ・進学に関する情報のデータ化。

## ・保健部

### (1)基本的生活習慣の改善・定着を図る。

- ・保健だよりの発行。

### (2)美化活動の改善・定着を図る。

- ・生徒保健委員会による清掃点検を充実させる。

### (3)学校保健活動を展開する中で、生徒の健康教育・防災教育の推進を図る。

- ・防災訓練、各種講演会を中心に、命を大切にすることを伝えていく。
- ・発熱生徒は減少しているが、同時に5人の生徒が保健室に来ることもあり、養護教諭1人では対応しきれない時がある。
- ・検尿の提出率が昨年度よりもアップした。
- ・地域の方との防災訓練も必要。災害時は、地域において高校生は、助けられる立場ではなく、助ける立場である。避難所ではどのようなことができるか考えさせている。

## 8 その他、意見や質問

- ・16期生で理系を選択しそうな生徒は何人いるのか。  
→予備調査では約30人が希望している

- ・理系を希望する生徒が少ないように感じる。
- ・大学見学はどのようなところに行くのか。
- ・今の子どもたちは、なかなか進路を決められていないのではないだろうか。
- ・大学側も生徒のニーズに合わせて、様々な学部を準備している。
- ・パンフレットにはいい事しか書いていないので、オープンキャンパスにどんどん行くべきである。
- ・中学1年生からどんどん説明会に参加する生徒もいる。実際に行ってみることが大切である。
- ・大学の授業料は年間100万円以上かかることが多い。しっかりと情報を入手して、後悔のないようにしてほしい。
- ・地域としては、できるだけ地域連携してほしいと思っている
  - 本校の地域貢献部では、ボランティア活動を通して、地域と連携し、人とつながることのできる生徒の育成をめざしている。花園商店街や寝屋川水系改修公営所などと連携して、菜の花から抽出した油を用いたのキャンドルナイトを計画している。
- ・15期生2年生からは新カリキュラムだが、何が変わったのか。
  - 3観点別評価については、今まだ手探り状態である
- ・大学側からは、高校でどのように教えているのかをよく知らないなので、大学入試は今のところ大きくは変わらないと考えている。
- ・観点別評価に変わり、評価の人数に影響はあるか。
  - 以前と比較して、「5」が1/3程度、「4」は変化なし、「3」は増加、「2，1」は変化なし
- ・指定校推薦の基準も変更したほうがいいのではないだろうか。
- ・日本では高校生はあまり勉強しない。中国では、勉強だけが人生を変える方法である。大卒と高卒とでは5倍給料に差がある。
- ・地域連携での防災訓練を今年度から再開する予定である。現在は池島学園と連携して進めている。
- ・この周辺地域は、1次避難所は池島学園小・中学校、2次避難所はみどり清朋高校である。
- ・昭和40年代、学校周辺は水害がとてもひどかったが、かなり改善されている。

## 9 次回日程の確認

第2回 令和5年10月2日(月) 11:00~12:30

第3回 令和6年2月5日(月) 11:00~12:30

以上